



自尊と敬虔

和木中学校だより 第2543号

令和6年12月2日(月)

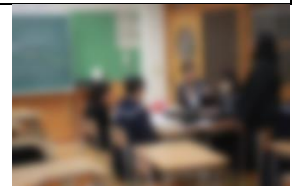
〒740-0061 和木町和木2丁目5番2号

TEL 52-4328 FAX 52-5265

和木中Webページ <http://www.sky.icn-tv.ne.jp/~waki-jhs/>



川沿いに遊歩道がございます



校長 鬼武伸哉

今年の夏、県内のある宿を訪れた時のことです。露天風呂の入り口に、表題の言葉が掲げられていました。私は、なぜこんなところに「観光案内」の表示があるのだろうかといぶかしく思いました。しかし、実際に露天風呂の端から身を乗り出して初めてその表示が「警告」であることに気付きました。もう少しで、丸々とした裸体を観光客に披露するところだったからです。授業やテストに取り組む際、特に「思考力・判断力・表現力」を問われる活動や問題では、その目的・場面・状況を正確に把握する必要があります。ところが、練習や経験の少なさから安易に自分の思いを軸に活動や問題解決に臨む場合が多く、適切な行動や問題解決に至らない場合がよくあります。学校での学びを「和木学園」の発想通り、生涯にわたって広げていくために教材の魅力や学習を継続する必要性を味わうことも子どもたちには求められています。学生時代に、小学校教員養成課程の友人と教材研究を定期的にする機会がありました。ある日、詩人の草野心平さんの「ゆき」という詩を題材にして授業づくりをすることになりました。紙面の関係で、最初の3行だけを紹介します。

しんしんしんしん しんしんしんしん しんしんしんしん ゆきふりつもる

たまたま、私と同じグループに沖縄県出身の友人が2人いましたが、彼らはこの詩のよさがまったくわからないと訴えました。彼らには、「しんしんしんしん」という擬態語の実感がまるでわからないのです。富山県出身の友人は、「しんしんしんしん」を擬音語だと断言しました。雪が降り積もるときには、本当にそういう音がすると主張するのです。こうした言い争いがひとしきり続いた後に、私たちは他の詩を教材にした授業をつくることで同意しました。そこには、議論しても分かち合えない経験値のギャップが存在していたからです。

高校3年生の冬、国語科の模擬試験で全く解答できず、解説を読んでも腑に落ちなかった問題が今でも私の頭から離れません。詩人の丸山薫さんによる「白い自由画」という作品に関わる問題です。

「春」という題で 私は子供達に自由画を描かせる 子供達はてんでに絵具を溶くが

塗る色がなくて 途方に暮れる ただ まっ白い山の幾重なりと ただ真っ白い野の起伏と

うっすらした墨色の陰鬱の所々に 突刺したような疎林の枝先だけ 私はその一枚の空を

淡いコバルト色に彩ってやる そして 誤って まだ濡れている枝間に

ぽとり！ と黄色の一と雫を滲ませる 私はすぐに後悔するが 子供達は却ってよろこぶのだ

「ああ まんさくの花が咲いた」と 子供達はよろこぶのだ

私の記憶が正しければ、模試で問われたのは、下線部の「私が後悔しているにもかかわらず、子供達が喜んだ理由」についてでした。この詩を理解するには、まんさくの花がどんな花かという知識と雪国の子どもたちがどんなに春を心待ちにしているかという心情に思いを馳せることが重要な条件になります。花に関心がなく、温暖な瀬戸内に住む当時の私が飛び越えるには、ハードルが高すぎた苦い思い出です。

各教科の2学期末テストの問題に目を通してしていると、目的・場面・状況を把握し、対応しなければならない問いがいくつもあることに気付きます。たとえば、第2学年の理科では以下のような問題が出題されています。

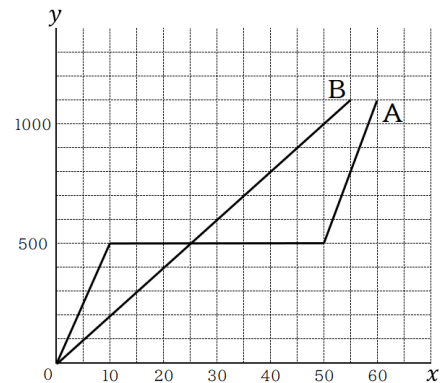
あなたは山口県玖珂郡和木町に住んでいて、友人から「明日の14:00、サイクリングに行こう」と誘われたとします。下の図が明日の8:00の予想天気図である場合、あなたは友人の誘いにどのように答えるか。科学的に判断し、理由をあわせて簡単に答えなさい。(天気図は省略します) 授業時には、子どもたちが島根県のある町にいるという設定でした。グループで意見を出し合い、考えたことがテストの解答につながる仕組みです。ちなみに、本校には登山が好きな教員がいます。同僚に登山を誘いかけていて聞いていますが、山は登れば必ず下りなければならないことから、彼が誘ってくれるなら、長時間にわたる気象情報に留意する必要があります。学習したことを実際に生かす場面は、案外身近なところにあるのではないかと思います。

急に寒くなり、「日本は二季の国になったのではないか」とある報道番組でニュースキャスターが口にしていました。そのニュースキャスターの思いを英語にするなら(①)、(②)に入る英単語は何でしょうか。ぜひ、お子様に尋ねてみてください。 I feel that Japan has two seasons: (①) and (②).

こんな問題も出題されています

表面に続き、数学科の問題を紹介します。第2学年の2学期末テストには次の問題が出題されています。

うさぎとかめが、山のふもとから頂上までの道のりを走る競走をしました。足の速いうさぎは、競走の途中で昼寝を始めました。その間にかめがうさぎを追い越しました。うさぎは目を覚ました後で再び走り始めましたが、追いつくことができず、かめが先にゴールしました。うさぎとかめが同時に出発してから時間を x 分、スタート地点からの道のりを y mとしたときのようなグラフにまとめました。



(紙面の関係で、(1)の問題のみを紹介します。)

(1) うさぎのグラフはA、Bのどちらかを答えなさい。

次は、先日行われた県学力定着状況確認問題の第1学年数学科の問題で、本校生徒の正答率が特に低かった問題を少しアレンジしてみました。ご家庭で、お子様と確認していただけますと嬉しく思います。

伸哉くんは、次の問題に以下のように答え、間違えてしまいました。彼が間違えた理由を説明しなさい。

問題 次の2つの式について、左の式から右の式を引きなさい。

$$5x - 8$$

$$3 - 4x$$

伸哉くんが出した答え

$$x - 11$$

例外もありますが、数学のテストでは通常、大問の(1)が解けて、続く(2)や(3)の問題に取り組みやすくなるように構成されていることが多いように思います。文系の国語や英語では、(1)の問題が解けなくても、(3)の問題で正答することがあることとは対照的だと考えています。第1学年で問われる上記の問題を理解していなければ、その後、同様のつまずきのもとで、正解にたどり着けない問題が多くなることも数学ではよくあることだと思います。課題となるつまずきはできる限り早目に克服しておきたいものです。

Happy 150th Anniversary for Waki Elementary School !

11月30日(土)に、和木町立和木小学校で開校150周年記念式典が挙行されました。当日、会場には児童、教職員に加え、米本正明町長をはじめ、多くのご来賓や地域の方々、卒業生等が集い、その佳節を盛大に祝いました。和木小学校は、明治7年に設立され、和田簡易小学校、和木尋常小学校、和木尋常高等小学校、和木村立和木小学校という改称を経て、昭和48年の町制施行に伴い、現在の和木町立和木小学校に至っています。式典に続き、スクールキャラクターデザイン表彰や全校児童による応援歌「希望のバトン」のお披露目がありました。記念講演では、講師の腰塚勇人様に「命の授業～ドリー夢メーカーと今を生きる～」という演題で式典に参加したすべての聴衆の心に届く講話をいただき、涙が頬を伝いました。昼食休憩をはさみ、午後は児童会企画「未来へつながる笑顔と希望の150祭」と題し、子どもたちの工夫を凝らした様々な発表で150周年の節目を祝っています。

